

平成19年10月22日～26日

Third International Symposium on Physical Sciences in Space

(第3回宇宙利用の科学に関する国際会議)

(日本マイクロ重力応用学会、JAXA共催、当財団支援)

2007年の10月22日～26日に、"Third International Symposium on Physical Sciences in Space(第3回宇宙利用の科学に関する国際会議)が奈良県新公会堂で開催されました。本シンポジウムは、宇宙環境を利用した物質科学および基礎科学に関する国際会議であり、1985年に始められたESA微小重力科学シンポジウムを国際的に発展させ、2000年にNASA,ESA, NASDA(当時)など各国を代表する宇宙機関が支援して、設置されたものです。第1回は2000年にイタリアで、第2回は2004年にカナダで開催され、宇宙環境利用科学分野で最大の国際会議となっています。

今回は18カ国から事前予想の2倍を超える約350名の関係者が参加し、口頭発表196件(招待講演11件、一般講演185件)、ポスター64件、学生向けの毛利ポスターセッション57件の発表が行われ、成功裏にシンポジウムを終了することができました。一般講演の分野と発表件数は以下の通りです。
流体科学:52、材料科学:26、結晶成長:16、燃焼:15、熱物性:13、実験装置:12、ダストプラズマ:12、材料合成:10、基礎科学:6、重力ノイズ関係:6、教育関係:5、応用利用:4、低温量子物質:4、宇宙探査:4

会議では最新の研究成果に関する討議、情報交換及び微小重力実験計画の報告が行われるとともに、宇宙機関の戦略の説明などが行われました。会議で得られた成果は、国際宇宙ステーションなどで実施される宇宙実験計画の高度化・実施技術の高度化に活用されるだけでなく、宇宙環境利用科学の進展や微小重力環境利用の新しい研究テーマの発掘に役立つと期待されます。

本シンポジウムには宇宙科学振興会からもご支援をいただき、会議の運営に大いに活用させて頂きました。ここに改めてお礼申し上げます。



Agency Talkにおける1コマ



毛利ポスターセッションにおける1コマ